

理事長挨拶



学校法人 加計学園 理事長・総長 加計 晃太郎

新型コロナウイルス感染症の拡大は教育現場にも様々な課題を突きつけました。本学園においてもコロナ禍にあって如何に教育を継続するか、如何に就学を支援できるかを最優先課題としてオンライン授業などの教育方法の転換や、キャンパス内のインターネット環境の整備、学内アルバイトでの経済支援、奨学制度の充実などに取り組んで参りました。

これまで本学園では、2017年に第1期中期計画（2017～2021）を掲げて教育事業に取り組んで参りましたが、この間に築き上げた成果をベースとして、本年度より、新たに「加計学園ビジョン2026」を立ち上げました。そのビジョンにおいては「1 教育・研究の推進」、「2 学生生徒の支援」、「3 地域社会との連携」、「4 国際化の推進」、「5 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進」、「6 ガバナンス体制と内部質保証システム」の6つを柱として第2期中期計画（2022～2026年度）がスタートし、新たな段階に入ります。

この「加計学園ビジョン2026」をベースに、設置校は各々の個性を反映したビジョンのもと過年度の認証評価結果を踏まえた中期計画、そしてこれを達成するための具体的な事業計画を策定しました。この策定に至る迄には、常任理事会で刻々と変わる社会変化に対応するための施策について議論を重ね、1年をかけて学園ビジョンから第二期中期計画そして事業計画までを一連の取組として予算と合わせて策定し、最終的に評議員会での諮問を経て理事会で決定しました。

今年度の事業計画について少し紹介させていただきますと、岡山理科大学では新学長での新体制のもと、学生・地域・社会から選ばれる大学を目指して、新たに情報理工学部と生命科学部を設置します。特に学士課程教育を充実させるため、学修者本位の教育の展開を支えるアカデミックアドバイジング体制を強化します。また、倉敷芸術科学大学では論理的・知性的スキルと感性的・直感的スキルを醸成する「A&S（アート&サイエンス）教育プログラム」を開発・展開して知性と感性を兼ね備えた人材の育成に取り組めます。千葉科学大学においても新学長での新体制のもと、教育の質保証を支える教学マネジメントを機能させ、時代の変化に対応した教育プログラムの充実を図ります。専門学校及び附属の中学校・高等学校においても「加計学園ビジョン2026」を柱として各設置校で掲げたビジョンと中期計画の実現に向けた取組を進めて参ります。

また、この2年間、コロナ禍でのオンライン授業等により学生生徒同士や教職員間の相互のコミュニケーションが制限され、留学生も自国で待機せざるを得ない状況が続いていましたが、地球規模でワクチン接種が進み、このほど留学生の出入国の制限も緩和される見通しとなるなど明るい兆しが見えて参りました。

一方、私立大学を取り巻く環境としては、18歳人口の減少に歯止めがかからない中で、相次ぐ私立大学の不祥事を受け、文部科学省では学校法人のガバナンス強化策を検討する学校法人制度特別委員会が設置され私立学校法の大幅な改正が議論されていますが、本学園はビジョンに掲げた「ガバナンス体制と内部質保証システム」のもと、理事会・評議員会の実質化と監事の監査機能の強化を中期計画に盛り込み、ガバナンスの機能強化を図り学校法人としての責務を果たして参ります。

最後に、学園の発展は学生生徒の成長と共にあり、建学の理念である「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し」を実践するべく教育・研究力にさらに磨きをかけ、教育機関としてのブランド力を一層向上して参りたいと思います。